

「ファリサイ派の人々とヘロデのパン種」

2022年02月11日

イエスは、「心の底から呻いて言われた。「なぜ、今の時代はしるしを求めるのか。よく言っておく。今の時代には、決してしるしは与えられない。」(マルコ福音書8章12節)

イエスは、「ファリサイ派の人々のパン種とヘロデのパン種に十分気をつけなさい」と戒められた。そこで弟子たちは、パンを持っていないということで、互いに議論し始めた。イエスはそれに気付いて言われた。「なぜ、パンを持っていないことで議論しているのか。まだ、分からないのか。悟らないのか。心がかたくなになっているのか。目があっても見えないのか。耳があっても聞こえないのか。覚えていないのか。」(マルコ福音書8章15節～18節)

主イエスの言葉と業は、民衆の絶大な尊敬と支持を集めた。地べたを這うような生活を強いられている彼らには、主イエスは待ちわびたメシアではないか、メシアであって欲しいという期待が膨れ上がっていた。そのことに対し、ファリサイ派の人々は嫉妬と敵愾心を燃やしていた。自分たちが作り上げてきた律法による差別管理体制を打ち破るような言動をする主イエスを、何としても殺害したいと監視体制を敷いていた。

ファリサイ派の人々が来て、主イエスがメシアであるなら、天からのしるしができるはずだと、しるしを求め、議論を仕掛けてきた。主イエスがしるしを行えないことを、民衆の前で晒し、彼らの期待が的外れであることを表したかったのである。主イエスは心の底から呻いて、「なぜ、今の時代はしるしを求めるのか。よく言っておく。今の時代には、決してしるしは与えられない」と言われた。しるしにおいてしか、神の恵みを捉えられないファリサイ派の人々の不信仰を嘆かれた。そして、彼らに背を向け、舟に乗って向こう岸に行かれた。

その舟の中で、弟子たちはパンを持ってくるのを忘れ、一つのパンしか持ち合わせがなかった。その時、主イエスは、「ファリサイ派の人々のパン種とヘロデのパン種に十分気をつけなさい」と戒められた。「パン種」とは、粉にこれをいれて、こねて焼くと、パンは膨らみ、美味しく食べられる。イースト菌のようなものである。主イエスは、しばしば「パン種」を譬えて、少量のパン種が全体を膨らませ、悪しき力が膨張すると否定的に語っておられる。弟子たちは、主イエスの「パン種」という言葉から、パンを持って来なかったことを指摘されたと思い、互いを責め合う議論を始めた。主イエスは弟子たちの議論を聞いて、「なぜ、パンを持っていないことで議論しているのか。まだ、分からないのか。悟らないのか。心がかたくなになっているのか。目があっても見えないのか。耳があっても聞こえないのか。覚えていないのか」と嘆かれた。主イエスは続いて、「私が五千人に五つのパンを裂いたとき、集めたパン切れでいっぱいになった籠は、幾つあったか」と聞かれたので、弟子たちは「十二です」と答えた。また、「七つのパンを四千人に裂いたときには、集めたパン切れでいっぱいになった籠は、幾つあったか」と問われたので、「七つです」と答えた。主イエスは、「まだ悟らないのか」と言われた。

ファリサイ派の人々とヘロデのパン種は、宗教と政治を通して、自分たちの栄誉と利益を膨らますために、人々を利用している輩である。主イエスは、少量のパンで多くの人と分かち合って満腹し、なお、パン切れが残った、終末を先取りした神の国の恵みを思い起こさせ、弟子たちに終末の完成を望み、恵みを信じて生きるように諭したのである。